

早瀬 晋三

現在、湾岸戦争が行われていることは、皆さんご存知の通りです。この戦争は、イスラーム教徒が多数居住している地域で起こっており、多くの人々がイスラーム世界への関心を高めています。しかし、人々はこのイスラーム世界をどこから、どのように理解していいのか、その糸口さえ見い出せないままではないのでしょうか。イスラーム、イコール、中東、アラブ、石油のイメージが固定化し、柔軟な視点でイスラーム世界をとらえることができなくなっているのが現状ではないでしょうか。確かに、中東アラビア語地域・非アラビア語地域でのイスラーム教徒の集住度は高く、中東地域の全人口の90%以上、2億数千万人のイスラーム教徒がこの地域に居住しています。しかし、この人口が全イスラーム世界から見てわずか30%強であり、ほぼ同じ人口の2億数千万人のイスラーム教徒が南アジア、とくにバングラディシュ、パキスタンに居住し、世界一イスラーム教徒の多い国が東南アジアのインドネシアであるという事実を思い浮かべる人は数少ないでしょう。東南アジアのイスラーム人口は、1億数千万人にのぼり、この人口は東南アジアの全人口の約40%にあたります。そして、その大半はインドネシアに居住しています。インドネシアは、実に全人口の90%近くがイスラーム教徒であるイスラーム教徒の国なのです。つぎに東南アジアで多くのイスラーム教徒が居住している国は、マレーシアです。華僑の多いこの国では約半分を占めるマレー人の大半がイスラーム教徒で、約800万人がイスラームを信仰しています。フィリピンはアジアで唯一キリスト教徒が大半を占める国ですが、南部ではスペインが北・中部をキリスト教化する以前からイスラームが普及し、現在約400万人のイスラーム教徒がミンダナオ島、スルー諸島を中心に居住しています。このほか小国ではありますが、ブルネイは全人口の3分の2の約16万人、シンガポール

は全人口の2割弱の約50万人がイスラーム教徒であります。また、フィリピン同様それぞれの国において全人口の数パーセントの少数派ではありますが、タイに約200万人、ビルマに約150万人のイスラーム教徒が居住しています。このように、東南アジアのイスラーム人口は無視すべからざる勢力を誇っており、東南アジアを理解するためにはイスラームを無視することはできませんし、イスラーム世界を理解するためにも東南アジアは無視できない存在であるということが出来ます。

私たち日本人はイスラーム世界を遠い地域の、異質の世界のものであるとして敬遠する傾向にあります。しかし、この近寄りがたいと考えられているイスラーム世界を、地理的に近い東南アジアから理解するならば、イスラームはより身近な存在となることでしょう。イスラームがひとつの地域に留まらず、世界各地に広がり、世界宗教となった所以は、イスラームの閉鎖性ではなく、開放性にあります。イスラームを理解困難であると考えている人は、その閉鎖性のみに目が奪われているためではないでしょうか。イスラームがもつ包容力を見出したとき、イスラームはより身近な存在となることでしょう。

このシンポジウムでは、東南アジアでもそれぞれの国によって、イスラームのとらえ方が違うことから、それぞれの国のイスラームを理解するキーワードを選んでみました。イスラームを基本とした国民国家を目指すインドネシアでは教育、マレーシアではマレー人が多数居住する農村、フィリピンでは古くから海上で活躍した海洋民に焦点をあてて議論をすすめていきます。

このシンポジウムをきっかけに、イスラーム世界、あるいは、東南アジア世界への関心、理解が深まることを期待しつつ、趣旨説明を終わらせていただきます。